

○ 部会開催概要

【開催日時】 R2.12.15 (水) 午後3時から4時20分 【会場】 ドーンセンター 特別会議室 【出席】 10名 (代理出席1名)

- (1) 大阪府ギャンブル等依存症対策推進計画の進捗状況について (3) 各機関の取組み状況 (新型コロナウイルス感染症による影響等) について
 (2) 「ギャンブル等の問題でお困りの方 (ご本人) の状況についてのアンケート調査」について (4) その他

(1) 府ギャンブル等依存症対策推進計画の進捗状況について

- 3月に計画を策定し、今年度は計画初年度とし取り組んでいるところ。
- 若年層への予防啓発については、出前授業の実施や文部科学省作成のリーフレットの高校への配布を実施。
- 理解促進については、5月の啓発週間にイベントを実施予定だったが、コロナの影響で中止。年度末にオンラインで府民を対象としたセミナーを開催予定。また、新成人向けの依存症の啓発チラシを作成し配布。
- 相談支援の強化については、5月よりこころの健康総合センターで、第2・第4土曜日の専門相談を開始。家族向け・本人向け集団プログラムも実施。
- 人材養成については、感染拡大状況を鑑み、オンライン研修等を実施。
- 自助グループ・民間団体の活動支援については、早期介入・回復継続支援事業により支援。
- 大阪依存症包括支援拠点 (OATIS) については、ホームページを開設し、各依存症の情報等を発信。

(2) 「ギャンブル等の問題でお困りの方 (ご本人) の状況についてのアンケート調査」について

- 昨年度専門医療機関や相談拠点の協力により実施し、257通配布、75名から回答を得た。
- ギャンブル等の状況については、初めてしたギャンブル等はパチンコ・パチスロが最多で、20歳未満でギャンブル等を始めた方が約6割。
- ギャンブル等が原因の借金経験は9割の方にあり、借金額は「100～500万円」が約4割で最多。最高額は5,000万円との回答もあった。
- 生じた問題では、「借金」が最も多く、次いで「貧困・生活困窮」「夫婦やパートナーとの関係悪化」「親子関係の悪化」の順となった。
- 相談しやすくなるために重要なものとしては、「正しい知識の普及啓発」「相談・治療の一体的に受けとることができる」「相談窓口の情報が広く知れ渡る」などが多かった。
- 依存症の予防教育、借金問題への対応、就労支援・生活支援等の対策、多岐にわたる問題への対応のために多機関での連携、正しい知識の普及啓発や相談窓口の周知、家族等への支援体制の充実、が重要・必要であると考察。

(3) 各機関の取組み状況等について (主なもの)

【新型コロナの影響について】

- 精神保健福祉センターでの相談件数は、コロナの影響かどうかはわからないものの増加。就労中の方が多く、テレワーク中だから相談できるという人もいた。
- 自助グループについては、ミーティングによっては会場を借りられない場合もあり、回復施設でミーティングを行うこともあった。
- 緊急事態宣言中、リモートでのミーティングを開いたが、遠くの人とつながれた反面、「やはりリアルがいい」とのことで、現在は通常のグループを再開している。
- 自殺未遂者支援の中で、コロナの影響で収入が減り、経済的な行き詰まりから自殺未遂に至るような事例があるが、話を聞くと背景にギャンブル等で多額のお金を使っている、といった、今までと違った形での依存症の相談が入ることがある。携帯等で簡単にギャンブル等にアクセスできるようになっている印象。
- 治療プログラムをオンラインで開催するなど、緊急事態宣言中は工夫した。現在は換気等をしっかり行いながら通常開催。
- ニーズがあったのでコロナ禍でもグループを開催した。

【多重債務等の問題について】

- 相談した機関として「弁護士・司法書士」が多かったため、法律分野でも依存症対策にしっかり取り組む必要があることを再認識した。
- 給与ファクタリングという新手法のヤミ金相談が一時期増えたが、現在は「後払いサービス」という新しい形の借金相談が増えている。

【ギャンブル等の種類の変化について】

- 自粛ブームの中、オンラインでのギャンブル等に、特に若い人がかなりのお金を使っている印象。
- コロナ禍でパチンコの売り上げは減少している (それでも高水準) が、反面、競馬についてはオンラインでかなり増えている。
- 診療を行う中で、パチンコは減ってきているが、ここ2～3年でネットでの競馬や競艇が増えている印象。特にアプリを使うと、キャリア決済ができるため、クレジット等がなくても借金ができてしまう。

【その他】

- ギャンブル等依存症からの回復には、本人・家族それぞれ別々に回復するのではなく一緒に回復することが重要。ミーティング等も同じ会場で本人・家族それぞれ開催しているところを案内している。
- ギャンブル等依存症への対策のスピードよりも、ギャンブル等を提供する側の技術等のスピードが上回っているので、支援者もそのことを認識して対策を行う必要がある。